

「砂絵」の絶対矛盾

チベット仏教に、砂絵曼荼羅というものがあります。

大切な儀式に際して、  
仏教の僧侶たちが、  
五色の砂を用い、七日間かけて、  
極色彩の曼荼羅を描くのです。

この砂絵曼荼羅の儀式においては、  
それを行う僧侶に、  
超人的な集中力と忍耐力が求められます。

僧侶たちは、  
驚異的な集中力と忍耐力によって、  
一つ一つの砂粒に全身全霊を込め、  
深い祈禱を捧げながら、  
この砂絵曼荼羅を完成させていくのです。

しかし、この儀式が終わったとき、  
チベット仏教の僧侶たちは、  
この砂絵曼荼羅を  
一瞬にして崩してしまいます。  
そして、その砂を、川に流してしまうのです。

何日間もの長い時間をかけ、  
膨大な精神のエネルギーを注ぎ込み、  
心を込めて創り上げたその曼荼羅を、  
何のためらいもなく、崩してしまうのです。  
そして、流し去ってしまうのです。

その砂絵曼荼羅の儀式を見ていて、感じます。

そこには、我々の人生がめざすべき  
究極の相が、ある。

全霊を込めて創り上げ、  
無心の境地で流し去る。

その「絶対矛盾」の相が、あるのです。